

次世代 AI 人材育成事業

国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業（BOOST）

2025 年度 大阪公立大学大学院
在学生・入学予定者対象

第 2 期生
学生募集要項

大阪公立大学
博士人材育成支援室

・

大阪公立大学大学院
情報学研究科

2025 年 1 月

1. 事業の目的

大阪公立大学大学院は、2024年度に博士後期課程の学生を対象とした文部科学省および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING）に加えて「次世代 AI 人材育成事業」（BOOST）に採択されました。

「次世代 AI 人材育成事業」（BOOST）では、本学博士学生の中から将来的に次世代 AI 分野を開拓・牽引していこうという志と能力を持つ学生を支援します。幅広い学問分野からの応募をお待ちしています。

2. 本 BOOST 事業の支援を通じて育成する人材像

本 BOOST 事業は、AI・情報学を活用して自らの専門分野の研究や社会課題を解決することに取り組む大阪公立大学のすべての研究科・専攻科に所属する博士後期課程学生・博士課程学生を対象とします。

本 BOOST 事業の選抜学生は、研究費を活用して、AI 分野の国際的 CoE（Center of Excellence）であるドイツ人工知能研究センター（DFKI）で AI・情報学に関する先端の知識・技術やその応用・適用について学修・研究する機会を得ることができます。DFKI での国際的な産学共創イノベーションの体験を通して、「次世代 AI 人材」としての知識や技術を磨いていただきます。

本 BOOST 事業の選抜学生は、将来各専門分野のトップレベルの研究者あるいは各業界や産業界でイノベーションを創出して日本の産業競争力の強化に貢献できる人材となることが期待されています。情報学以外を専門とする学生でも、自身の研究を遂行する上で、プログラミング、機械学習・アルゴリズム、データベース、数学・統計等のスキル等を活用できるレベルに達し、AI エンジニアあるいはデータサイエンティストとしての活躍を期待します。

具体的な育成する人材像のイメージは、課程修了までに以下（a）・（b）のいずれかを目指していただくこととなります。

(a) 学際 AI 人材： AI・情報学分野の知識や技術を駆使して、専門家だけでは発想し得ないイノベーションの実現を目指して、自身の研究テーマの問題や社会課題の解決に向けた取り組みを進められる人材。

(b) 基幹 AI 人材： AI の「核」となる基幹技術に深い理解を有し、新しい発想で新技術を生み出すなど AI 分野の基礎・応用あるいは先駆的領域でリードする研究者を目指して、複数の問題に分野横断的に内在する本質的な課題を発見するなど、AI・情報学分野の研究領域の進化も視野に入れた取り組みを進められる人材。

3. 申請資格

1) 2025年4月で大阪公立大学の博士後期課程（3年制）もしくは博士課程（4年制）に在籍している、あるいは2025年度（4月及び10月）の入学予定者として出願中または出願予定者が対象です。かつ、標準修業年限内に学位を取得する意思のある者で、指導教員（指導予定教員）の許可を得ている者。

※ 全ての研究科・専攻の学生が対象です。ただし、対象学年については、2025年度時点において獣医学研究科及び医学研究科は博士課程の2～4年次、その他の研究科の場合は博士後期課程の1～3年次とします。また、秋入学生の場合は2025年度4月時点で残りの修業年限が1年以上の1～2年次生、獣医学研究科及び医学研究科の場合は残りの修業年限が1年以上の2～3年次生までが対象となります。

※ 今後の大学院入試を受験する方（現時点で入学前の場合）は、入試の出願時にあわせて希望する指導教員の確認を得てください。また、留学生の場合で出願資格等の確認が事前に必要な場合は入試課に必ず事前に相談してください。

2) 自らの博士後期課程の研究課題や社会課題等の解決に向けて、自らの専門分野の他、AI・情報学分野の素養を持ち、AI・情報学を活用できる者。または、情報学を主専攻としない学生であってもAI・情報学の知識や技能を専門的あるいは副次的に学修する意欲のある者。

3) 本BOOST事業の支援を受けて、将来的に次世代AI分野の研究を本格的に推進・先導することを通じてリーディングサイエンティストとして成長するという強い意志と意欲がある者。

4) 本BOOST事業では、SPRING事業が目指している素養も磨いていただくため、①「トランスファラブルスキル」を身に付ける意欲、②異分野融合研究を進める発想力や具体的な計画力、③国内外の研究機関と共同研究等を進めるための外国語によるコミュニケーション能力、④社会課題の解決やイノベーション創出に向けた行動力などを身に付けようという意欲・資質を求めます（本BOOST事業の審査項目の中で考慮した内容となっています）。

※ 既に、SPRING事業に採択されている者が、本BOOST事業に応募することは可能です。

※ 今回、SPRING事業と本BOOST事業を同時に申請することも可能です。

※ 本BOOST事業への応募時点で、SPRING事業に採択されているかどうかは、審査に有利・不利になることは一切ありません。

※ 以下に該当する者は支援対象外となります。 申請できませんので、ご注意ください。

- ・独立行政法人日本学術振興会の特別研究員（DC）に採択されている者
- ・国費外国人留学生制度による支援を受ける留学生
- ・日本政府から奨学金を支給されている留学生（JICA 留学生含む）
- ・本国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- ・生活費に係る十分な水準（240 万円／年）の奨学金を得ている者
- ・所属する大学や企業等から安定した十分な生活費相当額（240 万円／年を基準とする）を受給していると認められる者

【注意事項】

- ・本 BOOST 事業に選抜された学生は、独立行政法人日本学生支援機構の特に優れた業績による奨学金の返還免除対象外となります。
- ・生活費ではなく研究費を支援する事業等の支援を受けている場合、本 BOOST 事業の支援対象者となりますが、あらかじめ支援実施事業者に本 BOOST 事業との重複が可能か確認することが必要です。

4. 支援内容

本 BOOST 事業に選抜された学生に対しては、以下の支援を行います。

研究奨励費（生活費相当額）及び研究費として年間 390 万円

- ※ 研究奨励費は、雑所得として扱われて課税対象となります。各自で確定申告を行う必要があります。
- ※ 研究費は、選抜された学生が自らの研究に必要な設備・備品・消耗品の購入、海外渡航・国内出張（資料収集、各種調査、打ち合わせ、研究開発、成果発表など）のための旅費（交通費、宿泊費、日当）、関係する論文の投稿（ジャーナル投稿料及び翻訳校閲料）などに使用できます。
ただし、経費の執行にあたっては、本学教員と同様に大学の経理手続の処理が必要となります。
- ※ 初年度配分額は、研究奨励費：年間で 300 万円、研究費：90 万円を予定しています。秋入学生の場合は半期の支給額は研究奨励費：150 万円、研究費：45 万円となります。
事業開始までに変更となる可能性があります。また、選抜学生は、毎年度、経費の使用計画書を提出し、大学の承認を受ける必要があります。

なお、年間 390 万円（半期 195 万円）の一部または残金を翌年度に繰越することはできません。

5. 支援期間・支援対象の条件

支援期間：採択後から標準修業年限まで

| 対象 | 年度 | | | | 支援期間 |
|-----------------------------|---------|---------|---------|---------|------|
| | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | 2028 年度 | |
| 博士後期課程 3 年 (医・獣)博士課程 4 年 | 採択 → | | | | 1 年間 |
| 博士後期課程 2 年 (医・獣)博士課程 3 年 | 採択 → | | | | 2 年間 |
| 博士後期課程 1 年 (医・獣)博士課程 2 年 | 採択 → | | | | 3 年間 |

秋入学の場合は以下のとおり

支援期間：採択後から標準修業年限まで

| 対象 | 年度・学期 | | | | | | | | 支援期間 |
|-----------------------------|---------|----|---------|----|---------|----|---------|----|--------|
| | 2025 年度 | | 2026 年度 | | 2027 年度 | | 2028 年度 | | |
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 博士後期課程 2 年 (医・獣)博士課程 3 年 | 採択 | | | | | | | | 1.5 年間 |
| (医・獣)博士課程 2 年 | 採択 | | | | | | | | 2.5 年間 |
| 博士後期課程 1 年 | | 採択 | | | | | | | 3 年間 |

※ 秋入学の場合、2025 年度時点で博士後期課程 3 年次生 及び (医・獣)博士課程 4 年次生となる方は、支援期間が半年間（2025 年 9 月末まで）となり、本 BOOST 事業での成果を生み出すには難しいため支援対象外となります。

支援対象の条件：

※休学・除籍・退学の場合は、支援の打ち切りとなります。復学後の支援はありません。支援期間中に休学・除籍・退学となった場合は、支援が打ち切りとなるだけでなく、その事由によっては、使用した支援金自体も返還していただく可能性がありますのでご注意ください。

※翌年度に日本学術振興会の特別研究員に採択された場合は、本 BOOST 事業は辞退の扱いとなり、本 BOOST 事業との重複受給はできません。

※SPRING と BOOST の同時受給はありません。どちらも合格した場合、原則として BOOST での採用となりますが、BOOST を辞退する場合は、合否発表後 1 週間以内に申し出ること。

6. 選抜された学生の責務

選抜された学生は、以下の 1) への参画が必須となります。SPRING 事業と連動していることから、以下 2) の参画も推奨します。

1) 参画必須事項

(1) ドイツ人工知能研究センター (DFKI) での研修 (使用言語：英語)

※支給する研究費(渡航費・滞在費)を活用していただきます。また、長期の滞在となる場合は、本 BOOST 事業での研究奨励費や他に獲得した資金を組み合わせることは可能です。

(2) 国内外の学会等で何らかの業績の発表(自身の研究に AI・情報学の要素を加味した研究成果とすること。情報系学会が望ましいがそれ以外でもよい)

(3) 本 BOOST 事業が実施するオリエンテーション・ワークショップへの参加

(4) 本 BOOST 事業に関連する行事への参加、インタビュー取材への協力

(5) 支援終了後の進路調査への協力

※ 上記 1)の(1)の DFKI の渡航例：

1) 選抜学生は、事前に情報学研究科の教員や DFKI のスタッフから説明を受けて、渡航前の準備を行う。選抜学生は事前に DFKI の教員やスタッフとの交流機会にも参加する(オンラインの場合もある)。その上で DFKI の研修をどのように活用できるかについて目標等を明確に設定する。

2) 渡航先の DFKI では、国際的な産学共創環境で、自ら研究課題の推進やイノベーション創出に向けた AI・情報学の活用方法を学ぶ。派遣期間中は、派遣された学生間でのグループワークなどにも参加し、チームで学ぶ。

3) 滞在中の生活面等での悩み事は、現地スタッフの協力者の他、本 BOOST 事業チームメンバーや指導教員などにオンラインで相談できる。

4) 研修前後から博士論文をまとめるまでの期間も、本 BOOST 事業の運営委員や受入教員などから適宜適切な指導やアドバイスを受けることができる。

2) 参画を推奨する事項（予定）

(1) SPRING 事業が主催するイベント・報告会等への参加（推奨）

※上記 2)の(1)の SPRING 事業が主催する行事等への参加の例：

1) SPRING 事業では、トランスファラブルスキル修得のための異分野研究交流会、キャリアパスの開発のためのキャリアデザイン支援やインタラクティブマッチングなどの各種交流機会がある。これらを活用し、自身の研究に新規アイデアの着想や異分野融合分野の新規可能性を踏まえ、研究促進と課題解決に向けた幅広い手法を身に付ける。

7. 募集人員

1～4 名程度

8. スケジュール

1) 出願期間：

2025 年 1 月 17 日（金）～2025 年 1 月 31 日（金）12:00 正午までに「申請フォームへの入力」と「申請書の提出」の両方が必要となります。

2) 書類審査・面接審査：

応募者全員の書類審査を行います。書類に不備がある場合もそのまま採点します。応募者多数の場合は、書類審査を経て、面接審査に進むことができる対象者を絞り込む場合があります。ご了承ください。

面接審査に進める場合は、面接実施日時を 2025 年 2 月 6 日（木）から 2 月 10 日（月）頃までに申請フォームに登録した電子メールアドレス宛に通知します。 電話等による合否の照会には応じません。

3) 面接実施期間：

2025 年 2 月 12 日（水）～3 月 7 日（金）のうち指定時間（20 分程度）

※ 面接はオンラインで実施します。

※ SPRING 事業・本 BOOST 事業の両方に応募している受験者は、適切に審査を行うために上記の所要時間よりも面接時間が長くなる可能性があります。

※ 前述の期間中に面接審査を受けることができない時間帯がある場合は、申請フォームの所定欄に理由を明記してください。後日、理由を証明する文書等の提出を求める場合があります。ただし、これによって特定の時間帯以外での面接を確約するものではありません。

4) 合格発表：

2025年3月頃を予定しています。面接受験者には合否の連絡を申請フォームに記載の電子メールアドレス宛に通知します。電話等による合否の照会には応じません。

9. 申請方法

1) 申請フォームへの入力：

「2025年度次世代AI人材育成事業申請フォーム」にアクセスして必要事項を入力ください。

<https://logoform.jp/form/JvkY/837026>

※ 入力（送信）期限：2025年1月31日（金）12:00 正午まで

※ 申請フォームでは、面接審査の日程調整と英語による面接を希望する場合などの調査を行いますので、必ず回答してください。

2) 申請書の提出：

本 BOOST 事業の案内を掲載している Web サイトの（様式1）「申請書」（Word ファイル）をダウンロードし、書類を作成の上、Word ファイル及び PDF ファイルの2点を申請フォームへアップロードしてください。

※ ファイル送信期限：2025年1月31日（金）12:00 正午まで

※ 申請書のフォーマットは日本語版と英語版のどちらを使用しても構いません。

※ 提出時の Word 及び PDF のファイル名を「学籍番号_研究科名_氏名」としてください。

※ 申請時点で本学に所属していない場合は、学籍番号を省いて「出願研究科名_氏名」としてください。

※ 申請書の Word ファイルの右上に「写真貼付欄」がありますので、頭から肩までが映った正面の顔写真を用意し、jpg または png 形式等のデータを枠内に貼り付けてください。画像が粗いもの、枠内に貼り付けていないもの、縦横比を変更したものの、画像ソフトで加工・修正した内容は認められません。

3) 注意点：

- ・ 出願書類に不備のあるものは受理できないことがあります。
- ・ 出願時に提出された書類は返却しません。
- ・ 出願手続後は書類の変更は認めません。
- ・ 入力事項や提出書類の記載事項が事実と相違している事が明らかとなった場合には、本 BOOST 事業への参加資格を取り消す場合があります。
- ・ 書類に記載の個人情報を審査の目的以外には使用することはありません。

10. 選抜方法

1) 試験内容

| 審査 | 配点 | 概要等 |
|------|-------|--|
| 書類審査 | 100 点 | <p>申請書（様式 1）の項目に従って、現在、取り組んでいる研究課題の概要をわかりやすく説明すると共に、その上で AI・情報学分野を活用してどのように研究を展開し、将来どのようなキャリアを実現するのかについて具体的に説明すること。</p> <p>※ ご自身の申請書の記述が、後述のルーブリック評価表の基準を踏まえた内容として十分な内容を事前によく確認して提出してください。</p> |
| 面接審査 | 100 点 | <p>面接はオンライン（Zoom）で実施します。PC やネットワークの環境は応募者本人が整えてください。冒頭 7 分程度でプレゼンテーションを実施していただきます。その後、13 分程度の質疑応答を行います。</p> <p>※ 申請書に記載した内容とルーブリック評価表の基準を踏まえて、自身の専門分野と AI・情報学分野の活用方法、渡航計画、学会発表、修了後に目指す進路などの計画などを分かりやすく説明してください。プレゼンテーションは、PowerPoint 等を画面共有していただきます。</p> |

2) 判定方法

書類審査と面接審査の 200 点満点で評価します。採点は P.10 に掲載の「次世代 AI 育成支援事業 ルーブリック評価表」の項目内容に沿って実施されます。

11. 問い合わせ先

本 BOOST 事業について質問がある場合は、学籍番号・研究科名・氏名を記載の上、以下のメールアドレスあてに連絡をしてください。平日の夜間及び土日祝日は応答できません。内容によっては回答までに時間がかかる場合がありますので、予めご了承ください。

なお、電話での問い合わせは応じられませんのでご注意ください。

大阪公立大学大学院 情報学研究科 情報学支援事務室

メール：gr-i-boost@omu.ac.jp

次世代 AI 人材育成事業 ルーブリック評価表

| 評価項目 | | 評価外・評価不可 | 標準を大きく下回る | 標準以下 | 標準 | 標準以上 | 標準を大きく上回る |
|------|---|----------|----------------------------------|--|--|---|---|
| | | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | 4点 | 5点 |
| 1 | AI・情報学分野の知識や技能を学修し、具体的に AI 関連のアプリやツールを使用し、具体的に導入・活用できている。 | まったくない | AI・情報学の知識や理解が乏しい | 意欲やアイデアはあるが、具体的に AI 関連のアプリやツールの使用を想定できていない | AI 関連のアプリやツールを理解しており、具体的な研究手法を計画し、説明できている | AI 関連のアプリやツールを試験的又は具体的に活用し、研究成果を生み出せる可能性を論理的に説明できている | AI 関連のアプリやツールの活用を実践し、既に一定の成果が見込まれており、さらに発展させる可能性を具体的に説明できている |
| 2 | 自身の専門の研究に AI・情報学を組み合わせる飛躍的に研究を発展できる可能性がある研究計画となっている。 | まったくない | AI・情報学を活用する道筋や見通しがついていない | 意欲はあり、着眼点は良いが、AI・情報学分野の知識が乏しく、実際に活用した研究手法や研究計画の説明ができていない | 専門分野に情報学を組み合わせた先行研究の有無まで調査しており、今後の研究手法と必要性を明確に説明できている | 専門分野に情報学を組み合わせた研究に実効性・具体性があり、今後、挑戦することで研究の進展が明確に期待できることを論理的に説明できている | 専門分野に情報学を組み合わせた研究に新規性・独自性があり、関連学会においても高い評価が見込める程度の確実性を具体的に説明できている |
| 3 | 最長3年間(標準修業年限まで)の研究期間の中で、ドイツに渡航し、ドイツ人工知能研究センター(DFKI)で具体的に世界の研究者と AI・情報学の技術を活用した共同研究が行える準備や能力が見込める。 | まったくない | ドイツ渡航の目的・時期・期間のイメージや計画が明確になっていない | 意欲はあるが、具体性に乏しく、渡航計画で獲得したい知識や経験が説明できていない | DFKI について調べており、どのような AI 研究の知識や知見を得たいのか自身の研究との関連性を分かりやすく、且つ、具体的に説明できている | DFKI で積極的に交流する意欲があり、AI・情報学分野の知見を深めるための課題意識や研究手法を設定できている、具体的な渡航準備があることを説明できている | DFKI での研究者同士の交流を通じて、具体的な研究成果を得るための道筋を具体的に計画して説明ができている、滞在期間中に得られる成果の実現性や確実性についても明確に説明できている |
| 4 | 本 BOOST 事業の成果を情報系の学会で発表することが見込める。または、自身の専門分野の学会で AI・情報学を活用した研究成果を確実に発表できる。 | まったくない | 情報系学会の具体的な学会名を調べておらず、実現可能性が低い | 意欲はあり、発表予定の学会は設定できているが、具体的な申請・発表までのスケジュールを説明できていない | 目標とする学会を設定し、それまでにどのような準備が必要で、実現するための具体的な研究計画と発表時期までを明確に説明できている | 先行研究を調査した上で、発表内容の骨子が定まっており、目標とした学会での発表に向けて具体的な準備状況等を説明できている | 目標とする学会での発表時期等が明確であり、発表予定の論文をまとめられる内容が既に相当出来上がっており、実現度を含めて明確に説明できている |
| 5 | 最長3年間(標準修業年限まで)の研究計画を立案できている。また、毎年約 390 万円の研究奨励金と研究費を適切且つ効果的に活用できる計画を有している。 | まったくない | 研究計画に対して妥当性のある予算執行計画になっていない | 意欲はあり、研究倫理の理解もあるが、研究計画に関連した予算の必要性を十分に説明ができていない | 研究倫理・研究不正防止の観点から研究を進める中で適切な予算計画と無理のない執行計画であることを説明できている | 研究倫理面での意識が高く、綿密な予算執行計画を立案しており、計画的で無駄のない内容であることを明快に説明できている | 研究計画を発展させるために効果的・効率的な予算執行計画となっていて研究費の適切な執行が自律的に担保されている |

(様式 1)

次世代 AI 人材育成事業 (BOOST) 第 2 期生・申請書

| | | | |
|--------------------|-----------------------|--|-------|
| フリガナ | | | 写真貼付欄 |
| 氏名 | | | |
| 学籍番号 | | | |
| 所属 | 研究科 | | |
| | 専攻 | | |
| | 学年 | | |
| 指導教員氏名 | | | |
| 博士論文の研究題目 | | | |
| 研究キーワード (5 個程度) | ・ ・ ・ ・ ・ | | |

その他の支援事業の申請・採択状況 (該当するものに☑を付け、該当年度を記入)

| チェック | 事業名 | 採択年度 |
|--------------------------|--|------|
| <input type="checkbox"/> | リーディング大学院『システム発想型学際科学リーダー養成学位プログラム』に採択されている | 年度 |
| <input type="checkbox"/> | 既に「次世代研究者挑戦的研究プログラム『リゾーム型研究人材育成プログラム』(SPRING)」に採択されている | 年度 |
| <input type="checkbox"/> | 今回、「次世代研究者挑戦的研究プログラム『リゾーム型研究人材育成プログラム』(SPRING)」に同時申請する | |

主要な論文等 (上位 5 編まで)

| 分類 | 論文名 (書名、件名等) | 発表機関 (学会名、出版社等) | 発表 年月 | 著者名 |
|----|-----------------|--------------------|----------|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ 分類には、「査読論文」、「論文」、「学会報告」、「学会ポスター発表」などと記載すること。

※ 学会発表等の受賞した論文の場合は「受賞名」を「発表年月」の欄の後に追記すること。

※ 5 編の記載内容が長くなる場合は次ページに渡って記載することになっても問題ありません。

次ページ以降に、下記の要項に従って記載してください。

1. 申請書はフォーマットを使用してください。改編しないでください。
2. 専門外の人に向けてわかりやすく説明してください。
3. 説明には補足的に図・表・グラフなどを使用してください。本文内に業績などを記載する場合は、氏名は記載せずに「申請者」と記してください。
4. 各設問の最後括弧内に文字数を記載してください。設定の字数を守って回答してください（本様式は1行で45文字程度です。校閲の文字カウントを使用して文字数をカウントしてください）。
5. 次ページの1)~6)までの6項目の内容について記載ください。

1) 自身の専門分野の研究内容を、専門外の者に分かりやすく説明した上で、さらにその研究を発展させるため、AI・情報学を活用する目的、研究方法、研究内容、研究の特色・独創性について、簡潔、且つ、具体的に記述してください。なお、図表を用いる場合は、最終ページに1枚以内でまとめてください。(1800文字程度)

(文字数：)

2) 自身の研究に活用する AI・情報学についての知識・技術の力量を踏まえて、自らの専門分野の領域で AI・情報学を活用することでどのような研究成果がもたらされるのか、先行研究等との比較、研究完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等を説明してください。(800 文字程度)

(文字数：)

3) 標準修業年限期間の中で、ドイツ人工知能研究センター(DFKI)への渡航計画について、どのような活動を実施し、どのような成果を得たいのか、渡航前後でどのような変化や成果が期待できるのか、できるだけ具体的に記述してください。(600 文字程度)

(文字数：)

4) 標準修業年限期間の中で、AI・情報学を活用した研究成果をどのような学会で発表することができそうか、発表時期、発表方法、研究タイトル、研究概要を説明してください。予定している学会が情報系でない場合は、研究タイトルに AI・情報学を活用したことを示した発表になるかどうかを明確にしてください。(600 文字程度)

(文字数：)

5) 選抜された場合、年間一人あたり研究奨励費 300 万円・研究費 90 万円が支給されます。標準修業年限期間の中で、特に研究費 90 万円を具体的にどのように活用する予定かできるだけ具体的な用途等の予算計画を説明してください。(600 文字程度で説明した上で、次ページの様式に経費の内訳を計画してください。)

(文字数：)

6) 経費明細表

※ BOOST では、選抜された学生の研究を推進するための経費として研究費 90 万円が支給されます。備品費、消耗品費、図書費、旅費交通費(渡航費・滞在費)、謝金、業務委託費、論文投稿費、印刷製本費、実験機器のリース料などの支出が可能です。

※ 選抜された学生の標準修業年限において最長3か年の資金計画の概要を明記してください。

※ 「執行時期」はおよその目安で構いません。「費目」の欄には、備品費、消耗品費などと記載してください。「内容」は分かりやすい説明を求めます。「金額」は 20 万円などの概算で構いませんがすべて税込額とし、一般的な販売価格を調査した上で記載してください。見積書やカタログなどを添付する必要はありません。

| 1年目 | 執行時期 | 費目 | 内容(商品名・品番・内訳等) | 金額(概算) | |
|-----|------|----|----------------|--------|---|
| 1 | | | | | 円 |
| 2 | | | | | 円 |
| 3 | | | | | 円 |
| 4 | | | | | 円 |
| 5 | | | | | 円 |
| 計 | | | | | 円 |



| 2年目 | 執行時期 | 費目 | 内容(商品名・品番・内訳等) | 金額(概算) | |
|-----|------|----|----------------|--------|---|
| 1 | | | | | 円 |
| 2 | | | | | 円 |
| 3 | | | | | 円 |
| 4 | | | | | 円 |
| 5 | | | | | 円 |
| 計 | | | | | 円 |



| 3年目 | 執行時期 | 費目 | 内容(商品名・品番・内訳等) | 金額(概算) | |
|-----|------|----|----------------|--------|---|
| 1 | | | | | 円 |
| 2 | | | | | 円 |
| 3 | | | | | 円 |
| 4 | | | | | 円 |
| 5 | | | | | 円 |
| 計 | | | | | 円 |

※ 支出項目が多岐に渡る場合は6番以降で採番して行を追加して記載してください。2ページに渡っても支障ありません。

最後に、前述の 1) で説明した研究内容を補足するために図表を用いたい場合は、1 枚以内に分かりやすくレイアウトの上、貼り付けてください。